
古の御話

モノクロ写真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

古の御話

【Nコード】

N1630U

【作者名】

モノクロ写真

【あらすじ】

現世は、平和ボケしすぎて、戦闘能力が平均的に下がっている。そんなときに、異世界から魔王が現われ、どうしようもなくなった国は、異世界召喚をして勇者を召喚しようと考え、そんな勇者に気に入られてしまって、巻き込まれていく。

プロローグ

私の生きる場所は戦場だ。そして、死に場所も戦場であることを疑わなかった。

「本当に疑わなかったのか？」私は自分に問いかけた。

当たり前だ。記憶にある限り、私は戦場で戦い続けてきたのだ。戦場と一緒に駆け抜けた連中は、皆、戦場で死んでいった。私だけが、死に場所を失うはずがない。

「多くの命を奪ってきたものが今更、死に場所を選べると思っていたのか？」私はまた自分に問いかける。

思っではない……だが、なぜ！……わたしだけが……私一人だけが……生きるために、殺してきた。それがいけなかったというのか……いや、そんなわけがない……。

自問自答を繰り返すが、未だ答えはでない。

私が生まれる前から行われていた戦争は、唐突に終わりを告げた。我が国王が死去し、継いだ王子が、調停を結んだからだ。

実際は、両国とも疲弊が激しく、戦争をやめたいと考えていたが全てにおいて、力が均衡していたために、どうすることもできなかったのだが、我が国王が死期を察してからは、裏で話し合いをして、かなりの不利の条件ではあるが、密約を交わした。

私がこんな裏事情を知る理由は、ただ単に私が王女になったためだ。

「ふふ、はははっ!!」

自然と笑みを浮かべ、笑い声をあげてしまった。私はおかしくなっていたのだろうか。まあ、そうなたとしてもおかしくないかと、客観的に自分を見つめる。

今の現状は、戦場で生きてきた私を国が捕え、血縁があるという理由から、名ばかりの地位を与え、牢屋の中に閉じ込めて、国民の怒りや憎悪を鎮めるための生贄にされ、自国で公開処刑されるのを待つばかりだ。

おかしくなるなという方が無理がある。

「まあ、仕方がないか・・・」

口に出すことは出来るが、心は納得できてはいない。しかし、あきらめるほかないか。

それにしても、我が義弟は、国のために死ぬ義姉に顔のひとつも見せに来ないとは、あきれたものだ。

「まあ、見たら殺してしまうかも知れんが」心の声がダダ漏れだな。

幾分、愚痴を言っていたら心は晴れたな。死と隣り合わせに生きてきたのだ。覚悟が出来れば、醜態をさらさずにすみそうだ。

戦場以外で死ぬ私は、戦場で死んでいった者たちと同じ場所に行けるだろうか・・・。

そして、朝日が昇る。

さあ、最後に花を咲かそうではないか。

処刑台

処刑台から見る景色は空が近く、大地が遠くに感じる場所だった。

長々と続いた戦争のせいで傷ついたものは多くいる。

下を見て、感じる気配は憎悪の塊だ。その気持ちを、私へと向けることで、国民は気持ちを鎮めるのだろう。

しかし上を見上げれば、私の死刑には似合わない、雲ひとつない日だ。まさか、死に際になって、こんなにも穏やかな気持ちになれるとは、思わなかったな。

「最後に言い残すことがあれば、それを許可しよう」

身なりのいい1人の騎士は急にそんなことを言う。偉そうだな、と思ったりしたが、すぐに何を言うかを考え、あることに気付いた。

「私は、アヴァロンの王女、アリス・ローラ・アヴァロン!!」

唯のアリスだったのが、ここ数日で新たな肩書を与えられたというのに、言わないのはもったいないと思って言ったのだが、どうやら・

「……」

続きを期待されてるらしい。はあく、なんか言わなきゃだめだよな。

「私は戦場に生きる者、今のこの世に不用であろう……しかし、またお前らが、戦争の過去を忘れたならば、私はまた、現れるだろう……絶対に!!」

今の私は、不敵に笑えているだろうか……

情けない顔をしていないだろうか……

私だって、死ぬのは怖い!!……だけど、仕方がないじゃないか。一度も会ったことがなくても、家族のために何か出来るのであれば、それを幸せと感じてしまっても仕方がないじゃないか。

「……やれ」

意識は一瞬にして、失われた……。

300年後

私は、転生をしていた。前世の記憶などいららないのに、その記憶を完全に引き継いだまま転生してしまったのだ。

「平和って幸せよね」棒読みだが・・・。

前世があまりにも酷かったせい、現世では、かなり幸せな家庭に生まれることができたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1630u/>

古の御話

2011年10月8日18時42分発行